



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp) 宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

## 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

### 東北大学大学院理学研究科 天文学専攻准教授

1. 准教授1名
2. (1) 東北大学大学院理学研究科天文学専攻  
(2) 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3  
東北大学大学院理学研究科
3. 理論天文学
4. 東北大学における理論天文学の研究（観測との連携も含む）、学生の教育、および大学運営
5. (1) 2020年2月1日以降のできるだけ早い時期  
(2) 任期なし
6. 大学院博士課程修了または同等以上
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷又はコピー（5編以内）、研究計画書、本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2019年7月1日（月）（必着）
9. 提出先・問合せ先  
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3  
東北大学大学院理学研究科  
天文学専攻長 田中秀和  
Tel: 022-795-6504  
Fax: 022-795-6513  
e-mail: [hidekazu@astr.tohoku.ac.jp](mailto:hidekazu@astr.tohoku.ac.jp)
10. 応募書類は封筒に「親展」と朱書し、簡易書留で送付のこと。（応募書類はお返しいたしません。提出されたすべての個人情報、選考の目的に限って利用し、選考終了後は責任を持って破棄い

たします。）

11. 東北大学は男女共同参画を推進しており、多様な人材の積極的な応募を歓迎しています。東北大学には全学教職員が利用できる川内けやき保育園（定員30名）、青葉山みどり保育園（定員100名）および、星陵地区の方が利用できる星の子保育園（定員120名）の全国の国立大学の事業所内保育施設として最大規模の保育環境が整っています。また、大学内病院内に軽症病児・病後児保育室もあり、全学教職員が利用できます。その他、本学の両立支援、研究支援等の詳細及び共同参画の取組については下記URLをご覧ください：  
男女共同参画推進センター  
<http://www.tumug.tohoku.ac.jp/>

### 東京大学宇宙線研究所 教授

1. 教授1名
2. (1) 観測的宇宙論グループ  
(2) 千葉県柏市
- 3.4. 宇宙論に関する光学観測的研究を通して広義の宇宙線研究に寄与できる方。特に、銀河形成や宇宙の再電離等に関する研究を行い、本研究所の観測的宇宙論グループにおいて中心的役割を果たしていただける方。
5. (1) 決定後なるべく早い時期、(2) 無し
6. 無し
7. 以下(1)から(5)までの書類を、e-mailに添付（電子ファイル）で提出してください。応募書類のファイル形式はpdfとします。e-mailによる提出に対しては、受信した旨の返信をしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。  
(1) 履歴書  
(2) 研究歴（A4版で3頁以内）  
(3) 業績リスト（論文リスト、研究発表リスト等）、及び主要論文別刷（5編以内）。  
提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。

- (4) 着任可能時期
- (5) 着任後の研究計画 (A4版で3頁以内)
- 8. 2019年5月31日(金) 正午必着
- 9. (1) e-mail  
application@icrr.u-tokyo.ac.jp,
- (2) 東京大学宇宙線研究所総務係  
Tel: 04-7136-3103  
e-mail: application@icrr.u-tokyo.ac.jp
- 10. 応募書類の提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。
- 11. 選考: 書類選考の後、面接を受けていただくことを原則とします。面接を受けていただく方には詳細を連絡します。  
その他: 「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。

### 大阪大学大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻教授

- 1. 教授1名
- 2. (1) 大阪大学大学院理学研究科・宇宙地球科学専攻  
(2) 豊中キャンパス
- 3. 地球表層環境, 地球と生命の相互作用, または宇宙生命圏の分野 (これらに関連する際領域を含む) を牽引する。
- 4. 上記の分野の研究を遂行し, 研究室を主宰する。学部/大学院教育および大学運営への積極的な貢献, 物理学科の学生指導, 全学の物理教育または地学教育を行う。
- 5. (1) 2020年4月1日以降, できるだけ早い時期  
(2) なし
- 6. 博士の学位を有すること
- 7. (1) 履歴書  
(2) 研究業績リスト及び競争的研究資金の獲得状況  
(3) 主要論文の別刷り (3~5編)  
(4) これまでの研究内容 (A4で3頁程度)  
(5) 研究・教育に関する今後の計画と抱負 (A4で3頁程度)  
(6) 意見を聞ける方 (3名程度) の氏名, 所属と連絡先。1名以上は海外在住の研究者が望ましい。
- 8. 2019年7月1日(月) 必着
- 9. (1) 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 専攻長宛

- e-mail: application@ess.sci.osaka-u.ac.jp  
提出書類は1つのPDFファイル (20 MB以内) にまとめ, 電子メールで送付して下さい。受領確認の返信を致します。
- (2) 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-1  
大学院理学研究科宇宙地球科学専攻  
松本 浩典  
Tel: 06-6850-5477  
e-mail: matumoto@ess.sci.osaka-u.ac.jp
- 10. 書類審査を行ったのち, 面接審査を行います。面接審査の案内は書類審査通過者にものみ通知いたします。面接のための旅費及び宿泊費等は応募者の負担とします。  
書類審査不合格の連絡はいたしませんのでご了承ください。  
大阪大学は男女共同参画の方針に基づき女性の応募を歓迎します。
- 11. 専門業務型裁量労働制適用 (みなし労働時間: 1日8時間)。その他の労働条件については [https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/kitei\\_shugyou.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/kitei_shugyou.html)

### LLP 京都虹光房

- 1. 組合員・若干名
- 2. (1) 特になし  
(2) 京都府京都市
- 3. 天文学, 観測装置開発, 天文教育および天文学関連分野
- 4. LLP 京都虹光房は, 天文学を専門とした研究者の新たなキャリア領域を拓くことを目指した事業組合です。組合員個々の専門性を活かし, 天文学や光に関わる技術・製品, 教育サービスを提供する事業を展開しています。京都虹光房の理念を共有し, 共に新しい事業を創造する組合員を募集します。  
LLP 京都虹光房の事業内容等の詳細については, Web ページ (<http://www.kyoto-nijikoubou.com>) をご覧ください。
- 5. (1) 2020年4月1日 (もしくは決定後できるだけ早い時期)  
(2) 任期無し。
- 6. 理学, 工学, 教育学など, 天文学およびその関連分野において, 修士もしくは博士の学位を有する者, もしくは採用時までには修了見込みの者
- 7. (1) 履歴書 (写真貼付) (2) 研究教育業績書 (任意書式) (3) 主要な業績について, 論文, 学会

発表資料等のコピー（5編程度まで）（4）自己アピール書（「自身のこれまでの研究実績とそこから得られた技能・技術、および現在の興味」、「それらの技能や技術を活かして自身が進めたい天文学ビジネスのアイデア、目標」を含めてA4 1-2枚程度にまとめてください）

8. 2019年6月30日（必着）
9. (1) 〒606-0003京都市左京区岩倉南大鷲町17-203  
LLP京都虹光房組合員募集係  
(2) LLP京都虹光房組合員募集係  
e-mail: jinji@kyoto-nijikoubou.com
10. 封筒の表に「組合員応募書類」と明記してください。原則として応募書類は返却いたしません。
11. 詳細は<http://www.kyoto-nijikoubou.com/koubo.html>をご覧ください。

## 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

## 日本大学文理学部物理学科 教員公募

1. 2018年9月（第111巻第9号）
2. 村田佳樹（大阪大学・大学院理学研究科・特任助教）
3. 2019年4月1日

## 日本大学工学部 物理学教室 専任講師または助教

1. 2018年8月（第111巻第8号）
2. 渡邊祥正（筑波大学数理物質系・助教）
3. 2019年4月1日

## 研究助成

### 公益財団法人住友財団 2019年度2件の研究助成

- ① 2019年度基礎科学研究助成  
1件当たりの助成額：最大500万円  
助成件数：90件程度
- ② 2019年度環境研究助成  
1件当たりの助成額：最大500万円

助成件数：一般研究50件程度  
課題研究3件程度

詳細は、2件とも下記のURLをご参照くださるようお願いいたします。

住友財団 <http://www.sumitomo.or.jp/>

募集期間：2019年4月15日（月）～6月30日（日）

※応募手順が2段階になっています。

6月10日（月）までにデータをメール送信し受付番号を取得することが必須となっています。書類は6月30日郵送必着。

応募方法：財団ホームページ（上記URL）から応募書類をダウンロードし必要事項を記入の上、住友財団宛に郵送でお送りください。

なお、ダウンロード等には、必ずwindows PCを使用してください。他のOSの場合、不具合が生じることです。

## 会務案内

### 日本天文学会 2019年春季年会報告

2019年春季年会は、3月14日（木）から3月17日（日）の4日間、法政大学小金井キャンパス（東京都小金井市）にて口頭講演8会場、ポスター講演1棟2会場を使って開催された。講演件数は口頭講演が375件、ポスター講演が164件（うちポストデッドラインペーパー2件）で、合計539件の講演があった。年会参加者は一般590名、学生320名の計910名であった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え、天文教育フォーラムを含む特別セッション4件、受賞記念講演、進路相談コーナー、ジュニアセッションも開催された。展示コーナーは2件の賛助会員による展示と2件の正会員による展示があった。開催地理事の春日隆氏や開催地実行委員の佐藤修一氏、田中幹人氏、岩沢美佐子氏ほか皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次の44名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表す。（敬称略）

	3月14日(木)	3月15日(金)		3月16日(土)		3月17日(日)
	13:00-15:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30
A会場	W.コンパクト天体 田中周太 (青山学院大学)	W.コンパクト天体 山岡和貴 (名古屋大学)	W.コンパクト天体 町田真美 (九州大学)	W.コンパクト天体 岩切渉 (中央大学/理研)	W.コンパクト天体 杉崎睦 (東京工業大学)	
B会場	L.太陽系/N.恒星 佐藤文衛 (東京工業大学)	N.恒星 松永典之 (東京大学)	M.太陽 飯田佑輔 (関西学院大学)	M.太陽 片岡龍峰 (国立極地研究所)	M.太陽 西塚直人 (情報通信研究機構)	M.太陽 成影典之 (国立天文台)
C会場	U.宇宙論 白崎正人 (国立天文台)	U.宇宙論/ X.銀河形成 井上昭雄 (大阪産業大学)	X.銀河形成 廿日出文洋 (東京大学)	X.銀河形成 松岡良樹 (愛媛大学)	X.銀河形成 田村陽一 (名古屋大学)	
D会場	V1.観測機器 松尾宏 (国立天文台)	V1.観測機器 川邊良平 (国立天文台)	V1.観測機器 小林秀行 (国立天文台)	V3.観測機器 谷津陽一 (東京工業大学)	V3.観測機器 森浩二 (宮崎大学)	V3.観測機器 松本浩典 (大阪大学)
E会場	V2.観測機器 峰崎岳夫 (東京大学)	V2.観測機器 小谷隆行 (アストロバイオ ロジーセンター)	V2.観測機器 松原英雄 (JAXA)	K.超新星爆発 鈴木昭宏 (国立天文台)	K.超新星爆発 谷川衝 (東京大学)	
F会場	T.銀河団 三石郁之 (名古屋大学)	R.銀河 八木雅文 (国立天文台)	R.銀河 徂徠和夫 (北海道大学)	S.活動銀河核 川島朋尚 (国立天文台)	S.活動銀河核 大藪進喜 (名古屋大学)	S.活動銀河核 笹田真人 (広島大学)
G会場	Q.星間現象 山本宏昭 (名古屋大学)	Q.星間現象 鳥居和史 (国立天文台)	Q.星間現象 内田裕之 (京都大学)	Q.星間現象 大平豊 (東京大学)	Y.教育・広報普及 高梨直紘 (東京大学)	
H会場	P1.星・惑星 大屋瑠子 (東京大学)	P1.星・惑星 武藤恭之 (工学院大学)	P1/P2.星・惑星 奥住聡 (東京工業大学)	P2.星・惑星 本田充彦 (久留米大学)	P2/P3.星・惑星 堀安範 (アストロバイオ ロジーセンター)	P3.星・惑星 福井暁彦 (東京大学)

〈記者会見〉

日本天文学会2019年春季年会記者会見は、年会前日の3月13日(水)13:30より法政大学九段校舎の会議室にて行われた。柴田会長による日本天文学会の組織と活動の概要、新設された日本天文遺産の認定と日本天文教育普及賞受賞者の紹介、および安全保障と天文学に関する年会中の日程を説明した。次いで開催地法政大学の佐藤修一氏により、同法政大学における天文学研究が紹介された。開催地のご努力により都心に近く交通の便利な会場を使うことができ、15社の記者と2セット(4台)のカメラが入り、翌朝には続々と印刷版、ウェブ版で配信が行われ、研究発表やセッションの様子などがテレビやウェブの動画ページで紹介された。

今回の記者会見で発表を行ったものは次の2つである。

発表1 「超遠方宇宙に大量の巨大ブラックホールを発見」

松岡良樹(愛媛大学宇宙進化研究センター)  
柏川伸成(東京大学大学院理学系研究科)  
関連講演 X02a, X12a, X18a

発表2 「地球型惑星の形成現場を描き出す—ALMA望遠鏡で捉えた“原始ミニ太陽系”—」

工藤智幸(自然科学研究機構国立天文台ハワイ観測所)  
橋本淳(自然科学研究機構アストロバイオロジーセンター)  
武藤恭之(工学院大学)  
関連講演 P204a

年会期間中も、特別セッション「安全保障と天文学III」や会員全体集會にカメラを含むメディアの参加

があり、会員全体集会後の記者レクを含め、活発な取材が行われた。国立天文台天文情報センターのご協力で4月13日までに収集できた印刷版（オンライン版）報道は、国際的なものも含め、松岡さんグループのブラックホールに注目が集まり13（515）件、工藤さんグループのミニ太陽系研究が1（152）件、日本天文遺産に関するものが15（107）件、安全保障と天文学に関するものが15（102）件などである。テレビでも全国放送でミニ太陽系に関する会見の様や、安全保障に関する紹介などが行われた。

（林左絵子）

〈特別セッション〉

【安全保障と天文学III:一日本天文学会からの声明文一】

世話人：柴田一成（京都大学）、  
林左絵子（国立天文台）、伊王野大介（国立天文台）、  
浅井歩（京大）、一色翔平（北大）、  
海老沢研（宇宙研）、大藪進喜（名大）、  
片岡章雅（国立天文台）、志達めぐみ（愛媛大）、  
須藤靖（東大）、善光哲哉（京大）、  
高橋慶太郎（熊本大）、戸谷友則（東大）、  
藤沢健太（山口大）

年会初日の3月14日（木）15:15から17:15まで年会A会場にて特別セッション「安全保障と天文学III:一日本天文学会からの声明文一」が開催された。3回目の本特別セッションは、天文学と安全保障の関わりについての声明案を会員の皆様に自由に議論していただくことを目的とした。参加者は約300名であった。

始めに、日本天文学会会長の柴田一成氏より声明案の紹介があった。次に、日本天文学会庶務理事の伊王野大介氏より会員アンケートの結果が説明された。その後、声明作成ワーキンググループのメンバーが壇上に上がり、会場の参加者とともに声明案についての自由討論を行った。幅広い年齢層から様々な観点の意見が出された。本セッションでの議論を受け、翌日に開催された代議員総会において、日本天文学会の声明を発表することが決定した。声明は学会Webページで公開されている。

【キャリアをどうデザインするか】

世話人：市川隆、今田晋亮、奥村幸子、鈴木寛大、  
須藤靖、高梨直紘、中川雄太、  
古屋玲（キャリア支援委員会）  
共催：日本天文教育普及研究会、  
男女共同参画委員会

年会2日目の3月15日（金）17:45から18:45まで、年会A会場にて特別セッション「キャリアをどうデザインするか」が開催された。本特別セッションは、天文学分野の出身者のキャリア形成について日本天文学会としてどのように支援していくべきかについて議論することを目的として、日本天文教育普及研究会および本会の男女共同参画委員会との共催で行われた。参加者は約100名であった。

初めに、キャリア支援委員の高梨直紘氏よりセッションの趣旨説明があり、それに引き続いて3名の登壇者からの話題提供が行われた。キャリア支援委員の市川隆氏からは日本天文学会の取り組みについて、学術会議連携会員の奥村幸子氏からは日本学術会議の取り組みについて、天文・天体物理若手の会の鈴木寛大氏からは若手の会によるアンケート調査の結果がそれぞれ報告された。これらの報告に引き続いて、会場を交えての全体討論が行われた。壇上には発表者3名に若手の会の中川雄太氏も参加し、これまでのキャリア支援のあり方の振り返りと、これからのキャリア支援のあり方について活発に意見が交わされた。

【国立天文台 一現状と今後一】

世話人：渡部潤一、井口聖（国立天文台）  
共催：自然科学研究機構国立天文台

年会最終日の3月17日（日）13:30から14:30まで、年会A会場にて特別セッション「国立天文台 一現状と今後一」を開催しました。本特別セッションの主題は、研究者コミュニティの皆様へ、現在の国立天文台が置かれた状況を正しく理解し共有して頂くこと、そして現在進めているさまざまな組織改革や新規プロジェクトの創出などについてご意見を頂くことでした。最終部で日曜日にもかかわらず、会場がほぼ一杯に埋まり、約150名の参加者がありました。初めに国立天文台副台長の井口氏よりセッション趣旨説明があり、そして国立天文台長の常田氏より「国立天文台の置かれた状況」、副台長の井口氏より「国立天文台の財務状況と今後の見通し」、研究連携主幹の齋藤氏より「科学研究部の創設」について講演を行い、それぞれで踏み込んだ内容を発表させて頂きました。質疑応答ではコミュニティの皆様から、国立天文台に対するさまざまな質問に加え、ご意見も頂きました。この機会を大事にし、国立天文台はコミュニティの皆様と直接対話する場を今後も持ちたいとの発言を最後にさせて頂きました。そして、セッション終了後も引き続き発表者との議論が続いていました。

## 〈天文教育フォーラム〉

【IAU100年と天文教育～Strategic Plan 2020-2030に向けて】

世話人： 鷹野重之，中串孝志，亀谷和久，  
富田晃彦，木村かおる  
共催： 日本天文教育普及研究会

年会2日目の2019年3月15日(金) 15:30から17:30までにA会場において、一般社団法人日本天文教育普及研究会との共催で天文教育フォーラムを開催した。世界の天文学研究者が集まる最大のコミュニティである国際天文学連合 (IAU) は2019年で創設100周年を迎える。IAUでは活動の大きな指針として、前回のウィーンでの総会において「IAU Strategic Plan 2020-2030」を採択した。この中で、2020年からの10年間で天文学の普及や天文学による社会の発展への貢献に力を注ぐとともに、学校教育をはじめとした天文教育およびinclusive astronomyに力を注いでいくことが示されている。そこで今回の天文教育フォーラムでは「IAU Strategic Plan 2020-2030」を紹介するとともに、日本の天文学・天文教育コミュニティに何ができるかを考えていくことを目的に開催した。約130名の研究者・教育普及関係者の参加の中、5名の話題提供をもとに議論を行った。

まず岡村定矩氏 (東京大学) より、「IAU Strategic Plan: 2010-2020から2020-2030へ」という題目で話題提供があった。世界天文年2009の成功を受けてIAU Strategic Plan 2010-2020が策定されたこと、その際、当初はAstronomy for the Developing WorldというテーマだったものがAstronomy for Developmentと改訂され、社会の発展のための天文学という位置づけがはっきりしたこと、さらにIAU Strategic Plan 2020-2030では社会との関わりをより強化したといった経緯の説明があった。IAUの年間予算1.5億円のうち日本からは国費で約700万円の支出があることなどからも、IAUに対して日本のコミュニティは強い関心を持つという呼びかけもあった。

続いて国立天文台がホスト機関であるIAU国際普及室 (OAO) のLina Canas氏より、「IAU Symposium on ASTRONOMY FOR EQUITY, DIVERSITY AND INCLUSION—a roadmap to action within the framework of the IAU centennial anniversary」という題目で話題提供があった。シンポジウムそのものの紹介にとどまらず、日本開催となった背景として日本でインクルージョンやダイバーシティに関しての議論の積み上げがあることを説明された。シンポジウムの成果として、三鷹決議を作成することを検討していることも

説明された。

続いて縣秀彦氏 (国立天文台) より、「天文教育の未来予想図—日本からの世界貢献とは?—」という題目で話題提供があった。天文教育を語る時の「文化と教養」とは何かについて考察をされた。その中で、教養とは人間としてのモラルにつながるものであり、理性と教養で人間になることができるという議論を紹介された。また、持続可能な開発目標として多く挙げられている中、宇宙の中の地球の視点の獲得というものが天文教育として大きく貢献できる中心的なものになるだろうと指摘された。IAU Strategic Planの策定とその改訂は、知識面だけでなく社会、平和、文化への働きかけへの重要性を訴えた1999年のブダペスト宣言からの大きな国際的な流れの中にあることも指摘された。

続いて嶺重慎氏 (京都大学) からは「Inclusive Astronomy」という題目で話題提供があった。インクルーシブ天文学とは、あらゆる人と共に推進する天文学であるという考え方を紹介され、同時に、インクルーシブという言葉を丁寧に掘り下げ、そこで大切にしたい考え方を考察された。次いで天文分野におけるインクルージョンの具体的事例紹介があり、ユニバーサルデザイン天文教育研究会、点図教材や聴覚障害者対応の手話による教材、支援学校や病院での出前授業などの取り組みが紹介された。そして、変わったことではなくて普遍性の最前線であるという自覚、また、多様性とは自分からの視野を広げる (半径を広げる) ではなく、新しい見方を拓く (立体的な方向になる) という見方ではないかと訴えられた。

続いて津村耕司氏 (東北大学) より、「天文教育: 大学と高校をつなぐ」という題目で話題提供があった。天文学をより良いものにする際により良いとは何か? という問いから出発し、サッカーは日本の文化になったという例を使いながら、天文が文化になるための方法について深い考察をされた。特に津村氏が関わっている「もし天」を例として、その背景や大切にしていることについての説明があった。ただ、もし天の申し込みは6割が女子生徒である一方、大学において天文学専攻で女子学生がまだ少ない事実を紹介され、女性が進路として天文学を積極的に選んでいない課題を明らかにした。また、小学生や高校生対象の活動は多いが、文化的な好みの方向性が決まるのではないかとと思われる中学生が対象の活動が手薄である問題点も指摘された。

その後、様々な角度から議論が行われた。特にジェンダー・ギャップの問題については、それぞれの国にそれぞれの事情があるため、それが何かを特定してい

き、それをもとに答えを探るべきという意見交換があった。

(富田晃彦)

#### 〈研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演〉

年会3日目の3月16日(土) 17:15から18:45までI会場にて2018年度研究奨励賞・林忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者および講演タイトルは以下の通りである。

#### 研究奨励賞受賞者講演

澁谷隆俊氏(北見工業大学)

「大規模観測データを用いた高赤方偏移銀河の統計的研究」

仏坂健太氏(Princeton大学)

「連星中性子星合体GW170817からのジェット」

武藤恭之氏(工学院大学)

「原始惑星系円盤の構造と惑星形成」

#### 林忠四郎賞受賞者講演

大栗真宗氏(東京大学)

「重力レンズ天文学の進展」

#### 〈懇親会〉

日程の関係で変則であったが、金曜日にあたる年会2日目、19時より講演会場と同じ建物内の生協食堂において懇親会が行われた。特別セッションのため開始時刻は遅くなったが、移動時間はほぼなくスムーズに会は始まった。東京であること、物理学会と日程が重複していることなどの問題から参加数が少ないことが危ぶまれたが、参加者数は一般83名、学生27名のほか招待客を合わせて計117名と100名を越した。

会では、冒頭に柴田会長のあいさつがあり、この小金井キャンパスの近くにお孫さん家族が住まわれていることなどの紹介もあった。続いて、法政大学から尾川理事(副学長)より歓迎の挨拶をいただいた。理事は小金井キャンパスを本拠としており、自身の専門である医療系のX線計測およびCT技術と天文技術との関連なども紹介され、またNHKコズミックフロントNEXTを楽しみにしていることなどのお話をいただいた。その後、国立天文台櫻井氏の音頭で乾杯を行い、宴に入った。

今回の懇親会では、特別な催しもなく、特記すべきことはなかったが、初めての大型学会懇親会と言うことで生協も張り切り、料理、お酒を出してくれ、途切れることなく進んだと考えている。懇親会の後半では、次回の開催地・熊本大学を代表して小出開催地理事が挨拶された。この場の挨拶では、懇親会について

は触れられなかったが、熊本の特色を生かした懇親会となるように考えられているとのことである。懇親会を通して、熊本の復興発展に協力しましょう。

(春日隆)

#### 〈保育室〉

法政大学中央館1階のセミナー室にて、保育室を開設した。本年度では6家族6名が保育室を利用し、授乳室の利用もあった。保育室の準備にあたり、法政大学スタッフの方々に様々なご協力をいただいたこと、感謝する。

(石川遼子, 町田真美)

#### 〈進路相談コーナー〉

日本天文学会のキャリア支援委員会は天文学および関連する多様な分野において、若手研究者が活躍できる場の開拓と確保を目指している。そのための企画の一つとして、年会会場に、様々な分野で活躍している先輩たちと直接懇談することにより将来のキャリアに関する視野を広げてもらう「進路相談コーナー」を設けている。今回のコーナーは3月15日、16日の2日間、11時30分から2時間設置した。tennetにおいて予めアドバイザーの名前と在学中の研究や就職後の仕事の内容を紹介した。アドバイザーは天文出身の6名(修士1名、博士の5名)、相談者はのべ13名であった。意見やアンケートをお願いしたところ、今回もアドバイザーや相談者から好評だった。アドバイザーからは今後のキャリア支援の方策について多くの助言があった。

(市川隆)

#### 〈ジュニアセッション〉

第21回ジュニアセッションが、天文学会最終日3月17日(日)にI会場で開催された。総数56件の発表があり、5分間の口頭発表とポスターの組み合わせが36件、1分間のショートプレゼンテーションとポスターの組み合わせが16件、ポスターのみの発表が4件であった。口頭講演には、タイの高校生による発表6件が含まれている。プログラムおよび予稿集は、ジュニアセッションホームページ(<http://www.asj.or.jp/jsession/2019haru/21st.html>)から公開されている。

今年は昨年に比べて講演数が大きく減少した。この原因については今後、分析が必要である。ただ、会場の熱気は変わらず、受付の記録では引率者を含む発表者が245名、当日受付した一般の聴講者が昨年より多く81名であった。これに加え約50名の天文学会会員が参加した。9:30のセッション開始時には432席の会

場はほぼ満席となり、午後のセッション終了まで会場の熱気が冷めることは無かった。

柴田一成天文学会会長の挨拶に続いて、午前中の口頭セッションが始まった。座長は、本原顕太郎氏（東京大学大学院理学系研究科）と石田光宏氏（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校）が勤めた。12時頃から13:30までのポスターセッション/昼食休憩を挟んで、13:30から午後のセッションを、小野寺幸子氏（明星大学理工学部）、可長清美氏（東京都立立川高等学校）の座長で行った。終了後15時頃から午後のポスターセッションの時間となり、熱心な議論が16:00の終了まで続いた。

今年は、口頭発表それぞれについて発表時間4分間の後に1分間の質疑応答の時間を設けた。これによりどの発表にも適確な質疑応答を行うことが出来、全体として時間が超過するほどの活発な議論が行われた。特にポスターセッションでは、参加者同士のみならず研究者と直接議論を交わし、アドバイスを求める事が出来るため、発表者には大いに刺激になったことと思う。

今年のジュニアセッションでは、午後のセッション開始前の30分間、ジュニアセッション世話人でもあるJAXA宇宙科学研究所の吉川真氏による「はやぶさ2」の最新成果に関する特別講演を行い、多くの参加者が熱心に聴講した。

実行委員会および世話人は、生徒の自由な発想による研究を尊重するとともに、全体的な研究・発表のレベル向上を目指してさらに運営の改善を行っていく所存である。何よりも、ジュニアセッションへの参加が、「研究すること」に対する意識を高められれば良いと考えている。天文学会会員の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。実行委員会および世話人自身も、新たな意識を持ったメンバーを迎え、体制の刷新を図ることが課題と認識している。

最後になったが、本ジュニアセッションは、日本天文学会が主催し、日本天文教育普及研究会、高校生天体観測ネットワークの共催、日本学術会議の後援で行われた。運営においては開催地理事春日隆氏をはじめとする法政大学の皆様、寺田幸功年会実行委員長や学会関係者ほか関係各位に大変お世話になった。篤く御礼申し上げる。

(山村一誠)

#### 〈公開講演会〉

2019年春季年会にかかる公開講演会は、種々の事情から年会本体とは場所・日時をずらし、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋）において3月24日(日)

に開催した。自然科学研究機構国立天文台の協力を受けた。講演会テーマは「太陽系小天体をさぐる」と設定し、林副会長の開会あいさつに続き、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所の吉川真准教授による「地球を守れ！地球接近天体とプラネタリー・ディフェンス」、および広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻の藪田ひかる准教授による「はやぶさ2本格始動 ついに明らかとなった小惑星リュウグウの姿」の2件の講演を行った。来場者は171人で、小学生から80歳以上まで広い年齢層の聴衆からは、たいへん活発な質問が寄せられ、質疑応答に設定した時間を超過しての閉会となった。終了後も質疑やサインを求める来場者が列をなした。各方面のご援助に感謝する。なお、本講演会はJSPS科研費JP18HP0009の助成を受けた。

(山岡均)

(年会実行理事：寺田幸功)

#### 入会・移籍・退会のお知らせ

2018年9月19日に開催された公益社団法人日本天文学会理事会において、正式に入会・移籍が承認された方、退会が報告された方の人数をお知らせします。

**入会** 正会員：91名 準会員：32名

賛助会員：1団体

団体会員：1団体

**移籍** 準会員→正会員：1名

**退会** 正会員：8名 準会員：4名

#### 第4期代議員欠員補充について

第4期代議員海部宣男氏の死去により、欠員が生じましたので日本天文学会定款第34条の規定に基づき、第4期代議員選挙において補欠順位第2位であった半田利弘氏の繰り上げ当選が決まりました。

補欠当選者の任期は2020年3月31日までとなります。

なお、同選挙の補欠順位第1位の井岡邦仁氏は第5期代議員に選出されています。

選挙管理委員会委員長 青木和光

## 会務案内

### 退任の言葉

2019年5月末日をもちまして、4年間に渡る編集委員の役目を完了致しました。就任前に、昔の編集委員経験者から「自分がやった時はほとんど仕事はなかったの、引き受けて問題無いと思うよ」と言われ、お引き受けしたものの、実際は毎月のように原稿の取りまとめや校正、校閲などが回ってきて、なかなか大変な4年間でありました。

ただ、例えば2016年に3か月に渡り計23本もの記事を掲載した「ひので」10周年記念特集を担当した際は特に校正が大変でしたが、とても充実した特集となり、今となっては良い思い出です。また、後に地球電磁気学会の学生優秀賞にも選ばれ各種メディアでも報道された早川尚志氏らの執筆による、「歴史書から探る太陽活動」についての特集を、その受賞に先駆けて当誌上で紹介することができたことも、印象に残っている仕事の一つです。

一方、この間に、石塚睦先生や川口市郎先生と言った、私自身にも関係の深い先輩方の追悼文集を担当することになったことも、時の流れの無常さとともに、何かの巡り合わせを感じさせられる出来事でした。

さて、天文月報全体としては、太陽物理学分野の記事の割合はまだまだ小さいと思いますが、私が辞めた後も、太陽分野では継続委員の西塚さん、後任の岩井さんのお二人が編集委員として在籍し続けます。今後このお二人が、ますます積極的に太陽分野の研究・活動紹介記事の掲載を推進して頂けるであろうことを期待しつつ、退任の御挨拶とさせていただきます。

(上野悟)

2期4年間、青木、小宮山編集長にお仕えし、山崎さん並びに今井さんら月報係の方々にも大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。青木前編集長には、編集委員の作業は楽しいもので、決して苦にはなりません、と着任時に励まされました。そのためでしょうか、4年間楽しみながら編集作

業に取り組むことができました。

編集作業は楽しい事ばかりではありませんでした。面識ある方への追悼記事の原稿を担当した際には悲しい気持ちを抑えつつ作業をしました。その経験は私にとりとても濃密であり、心の中で故人の方にお別れを伝える最後の貴重なひと時となりました。

任期を終える今、一番感謝致したいのは、天文月報を読んで頂いている会員の皆さんです。これからは、一会員の立場で天文月報を支えていく所存でありませす。有難うございました。

(萩原喜昭)

2期4年間にわたり、編集委員を務めさせていただきました。様々な分野の最新成果がわかりやすく書かれた文章を、いち早く読むことができるのは大変楽しくかつ勉強になりました。また、初の重力波直接検出及び中性子星連星合体の同定という、私自身が関わっている分野での大大イベントに、編集委員として立ち会い、執筆者の皆様のご協力のおかげでたくさんの記事として発表できたことは大変運が良かったと思っています。

一方で、日本語というものの難しさを再認識する場面もあり、物事を正確にわかりやすく簡潔に伝えるためのスキルを私自身も日々磨いていかなければと思うことが多々ありました。

私からの記事執筆の依頼や緊急の修正の依頼など、不躰なお願いにご対応くださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

今後は、一読者、時には一執筆者として天文月報という素晴らしい月刊誌を楽しんでいきたいと思っています。

(諸隈智貴)

## 訃報

会員の柿沼隆清氏は2019年3月15日にご逝去されました。満93歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol112** (6文字) の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

小宮山裕 (委員長), 上野悟, 江草芙実, 岡部信広, 奥村真一郎, 押野翔一, 嘉数次人, 滝脇知也, 富田賢吾, 中村航, 西塚直人, 萩原喜昭, 福井暁彦, 松田有一, 諸隈智貴, 山田真也

令和元年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6 株式会社 国際文献社

定価720円 (本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2019年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)